

都市計画道路について

練馬区立大泉第二中学校の教育環境保全および
都市計画道路の整備に関する有識者委員会

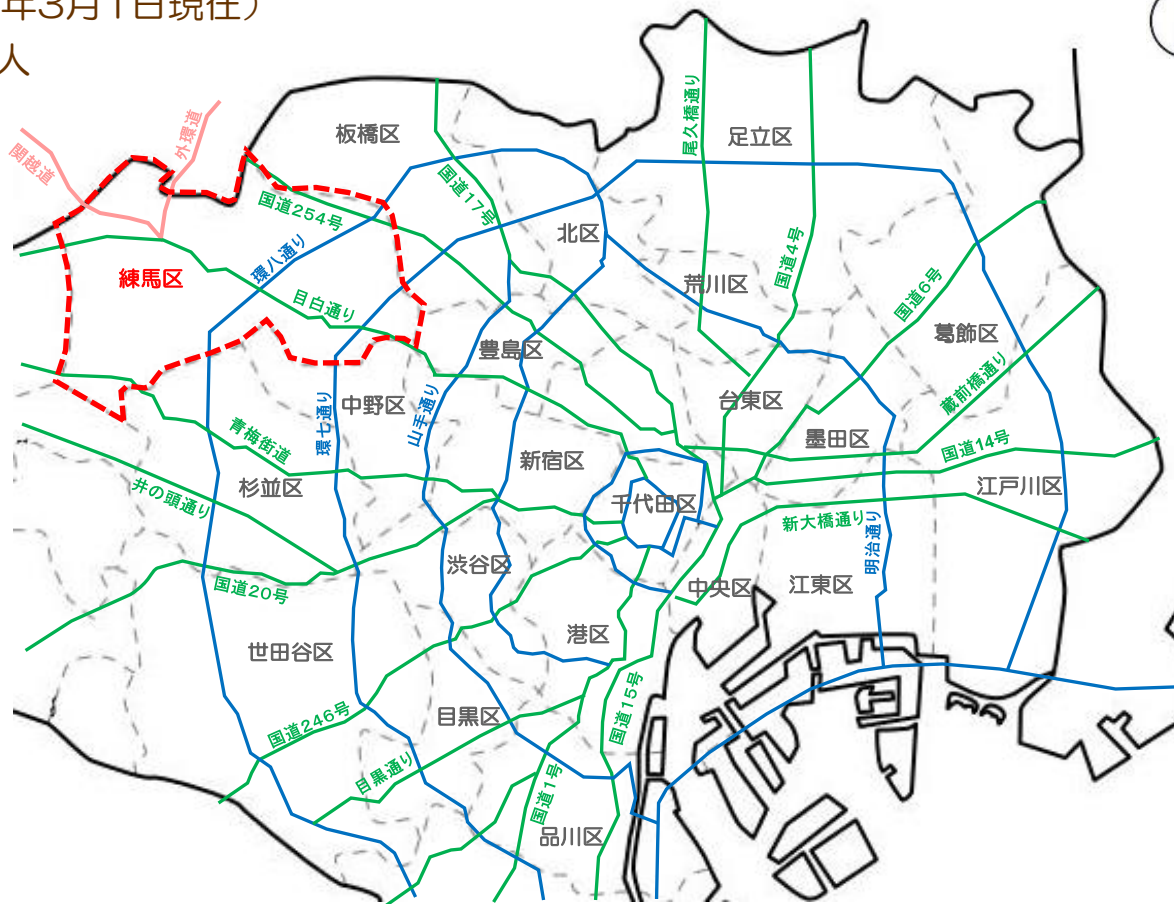
1.練馬区の概要

■面積

48.08平方キロメートル（大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目）

■世帯数および人口（平成28年3月1日現在）

355,743世帯 719,165人
（世田谷区に次いで2番目）

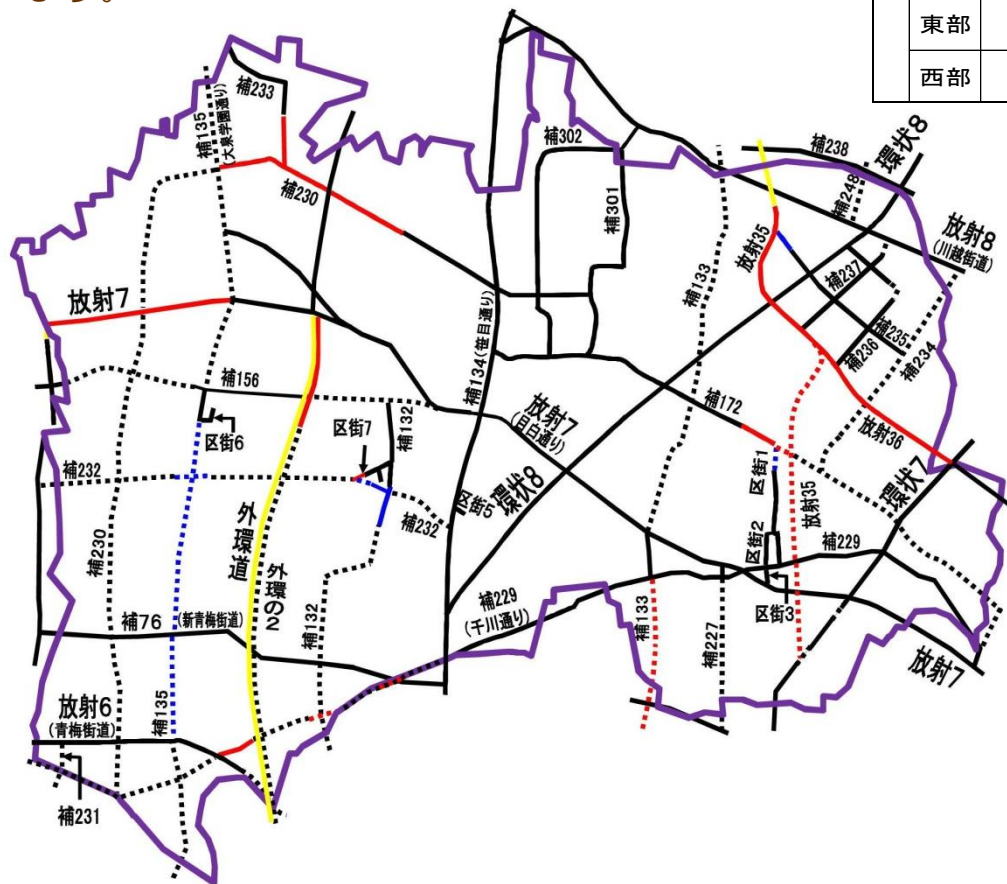


	主な放射線
	主な環状線

2.区における都市計画道路の整備状況

区内の都市計画道路の完成率は約50.3%であり、23区平均の約64.2%を下回っています。

特に西部地域の完成率は約30.1%と低くなっています。



都市計画道路の整備状況

	計画延長 (km)	完成延長 (km)	事業中延長 (km)	未着手延長 (km)	完成率 (%)	備考
区部	1,766	1,135	147	482	64.2	H26.3.31現在
練馬区	108.3	54.6	10.2	43.6	50.3	H27.3.31現在
東部	58.4	39.5	3.9	15.0	67.7	
西部	50.0	15.0	6.3	28.6	30.1	

(注)各項目の合計は、端数処理のため一致しないところもあります。
(注)未着手延長には、概成の都市計画道路が含まれています。

【凡例】

	完成	—
事業中	東京都施行	—
	練馬区施行	—
	上記以外	—
計画	優先整備路線 (東京都施行予定)	⋯
	優先整備路線 (練馬区施行予定)	⋯
	上記以外	⋯

出典：練馬区都市整備部資料

3.都市計画道路の整備方針『第四次事業化計画（案）』の概要 ①

■将来都市計画道路ネットワークの検証

この方針においては、道路整備の四つの基本方針を踏まえ、未着手の都市計画道路（幹線街路）を対象に、15の検証項目に照らして「将来都市計画道路ネットワークの検証」を実施しました。



◆その結果、区内の対象路線は全て必要性が認められました。

基本目標

活力

防災

暮らし

環境

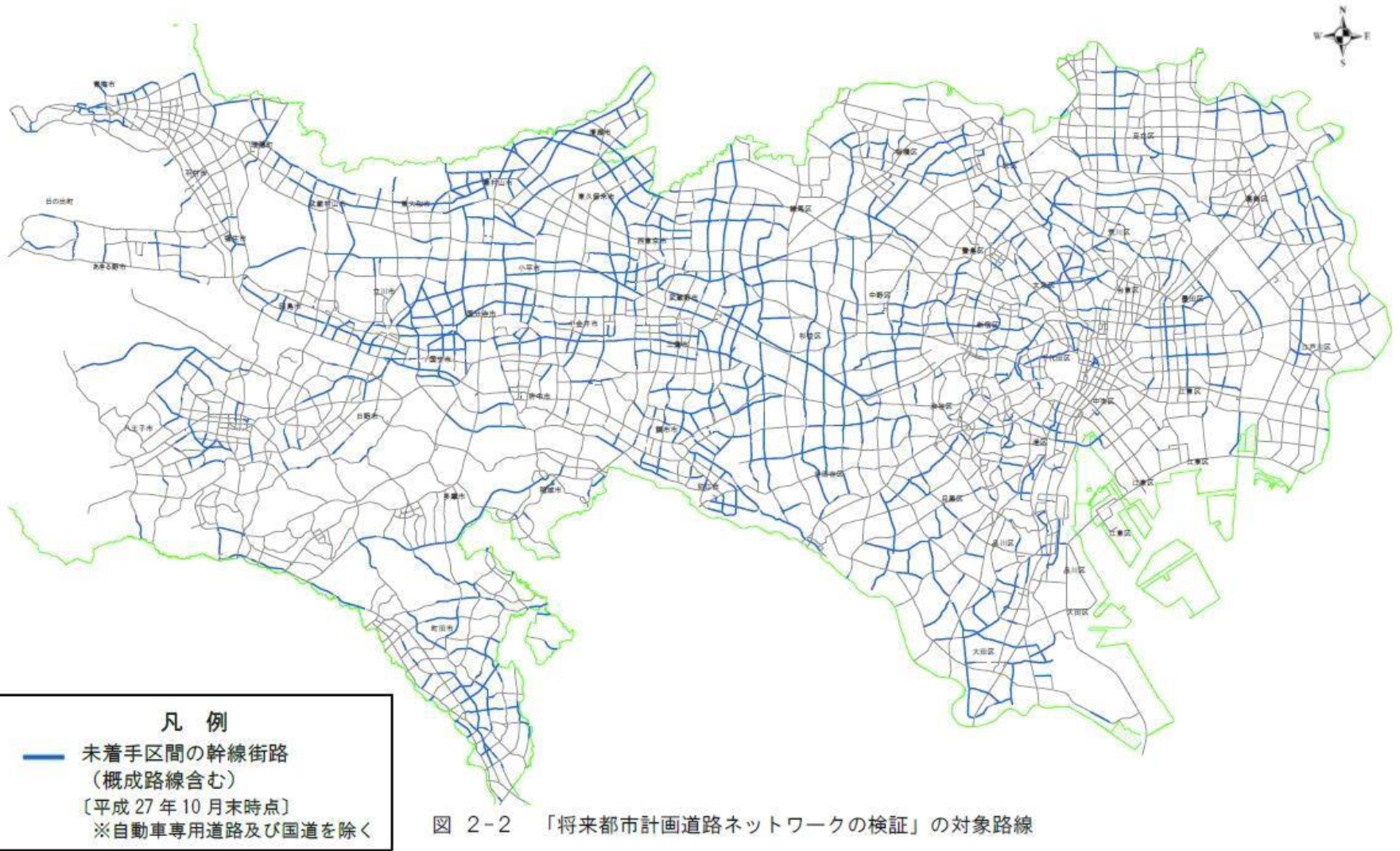
検証項目

1	骨格幹線道路網の形成	活	防	善	環
2	都県間ネットワークの形成	活	防		環
3	円滑な物流の確保	活			環
4	交通結節点へのアクセス向上	活		善	
5	交通処理機能の確保	活		善	
6	緊急輸送道路の拡充		防		
7	避難場所へのアクセス向上		防		
8	延焼遮断帯の形成		防		
9	災害時の代替機能		防		
10	都市環境の保全				環
11	良好な都市空間の創出				環
12	公共交通の導入空間	活		善	
13	都市の多彩な魅力の演出・発信	活			
14	救急医療施設へのアクセス向上			善	
15	地域のまちづくりとの協働	活	防	善	環

「検証項目」に示した番号は、検証の順位を示すものではありません。

図 2-1 将来都市計画道路ネットワーク検証の検証項目

3.都市計画道路の整備方針 『第四次事業化計画（案）』の概要 ②



出典：東京都都市整備局HP

3.都市計画道路の整備方針 『第四次事業化計画（案）』の概要 ③

■優先整備路線の選定

道路整備の四つの基本目標を踏まえ、東京全体を捉えた将来像や広域的な課題に加え、地域の将来像や地域的な課題解決に向け、それぞれの視点から6つの選定項目を設定し、今後10年間（平成28年度～平成37年度）で優先的に整備すべき路線を選定しました。



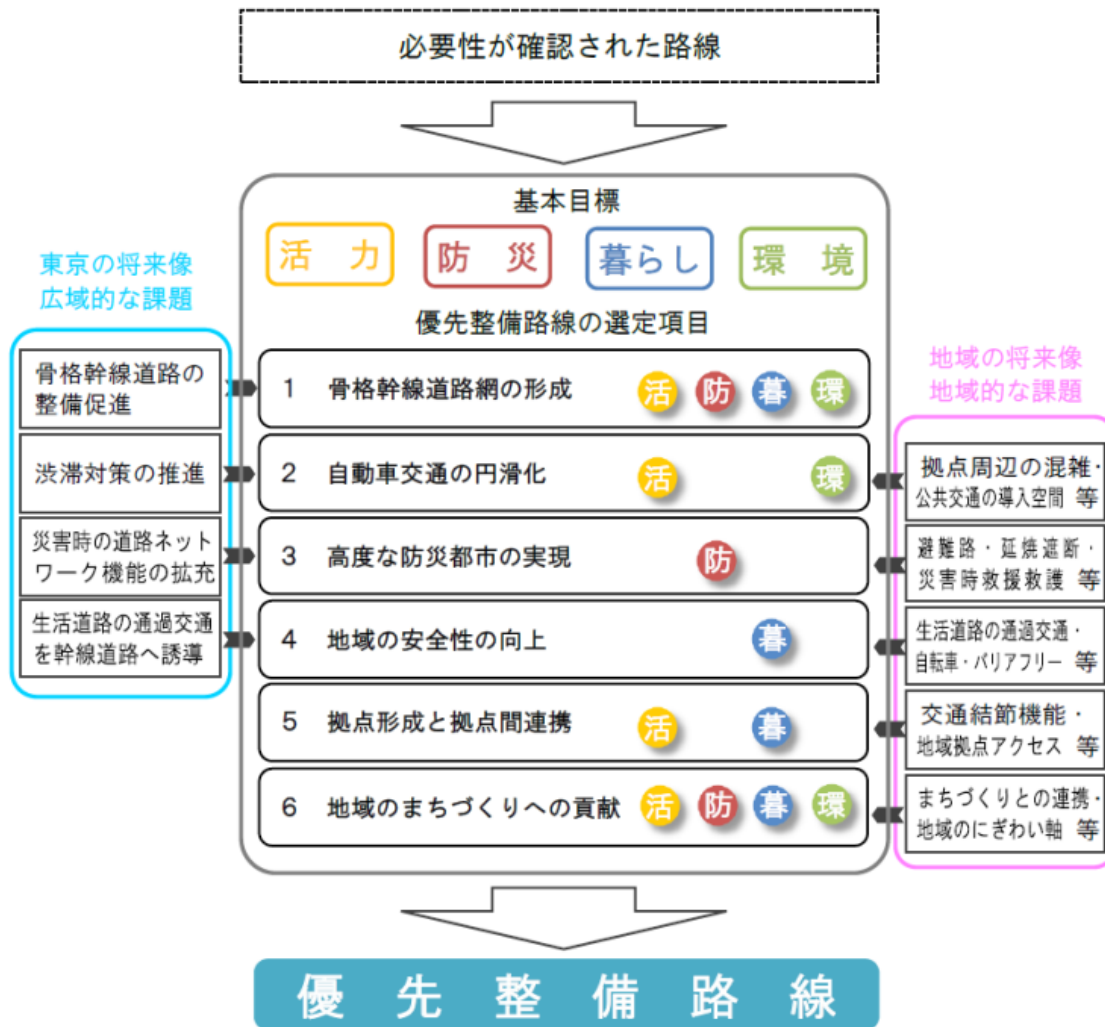
区内では、補助135号線や補助232号線など20区間を優先整備路線として選定しています。

■補助135号線

（放射6～練馬区画道路6：2,770m）

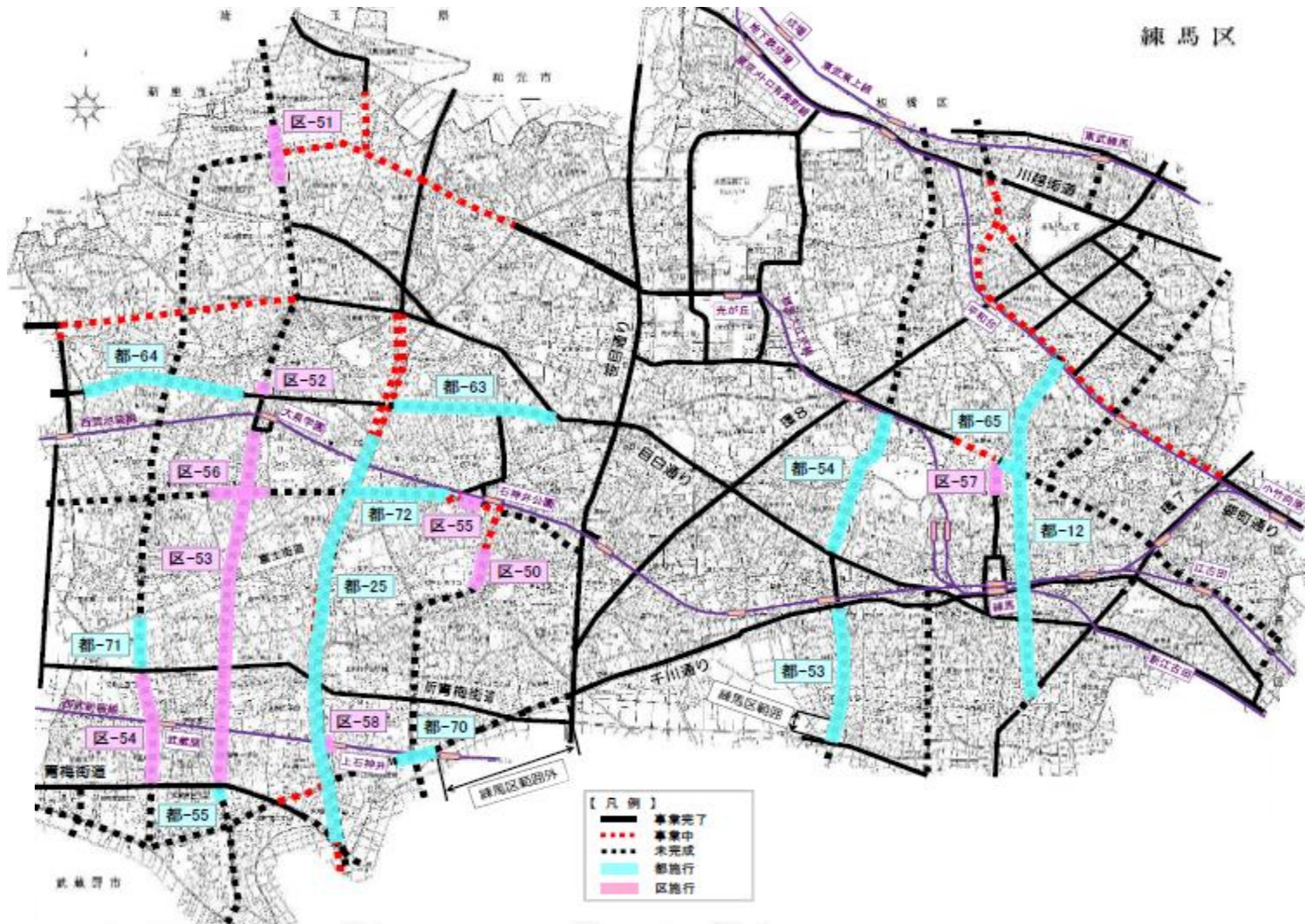
■補助232号線

（補助135付近：500m）



出典：東京都都市整備局HP

3.都市計画道路の整備方針 『第四次事業化計画（案）』の概要 ④



出典：練馬区都市整備部資料

4.補助135号線および232号線の概要 ①

補助135号線の概要

■概要

昭和22年11月26日 <戦復告第128号>

延長7,000m 幅員15m

起点：練馬区立野町 武蔵野市界

終点：練馬区大泉学園町七丁目 埼玉県界

主な経由地：練馬区東大泉六丁目

■主な変遷

昭和22年：都市計画決定

昭和56年：補助156号線付近～都県境を前期（概ね昭和65年）に完成もしくは着手すべき路線として選定

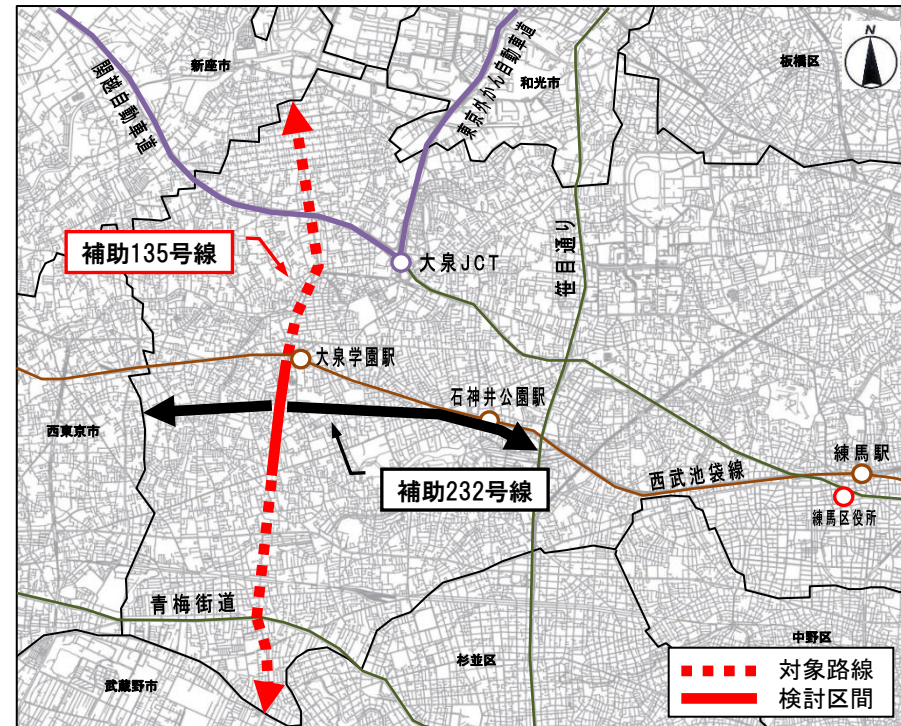
平成 3年：放射6号線～埼玉県境を前期事業化予定

路線（概ね平成15年度を目途に着手又は完成すべき路線）として選定

平成11年：補助135号線のうち、大泉学園駅西側のアンダーパス部分の工事に着手

平成13年：補助135号線のアンダーパス部が開通し、踏切による混雑が解消

平成16年：放射6号線～大泉学園駅再開発事業区域を優先整備路線（今後12年間（平成16～27年度）で優先的に整備すべき路線）として選定



4.補助135号線および232号線の概要 ②

補助232号線の概要

■概要

昭和41年7月30日 ※注 <建告第2428号>
(※注：戦前に決定されていた『細街路』を踏襲して、
昭和41年に決定したものです。)

延長4,380m 幅員16m

起点：練馬区石神井町一丁目

終点：練馬区南大泉三丁目 西東京市界

主な経由地：練馬区石神井町三丁目

■主な変遷

昭和初期：細街路「板橋区道3号線」の都市計画決定

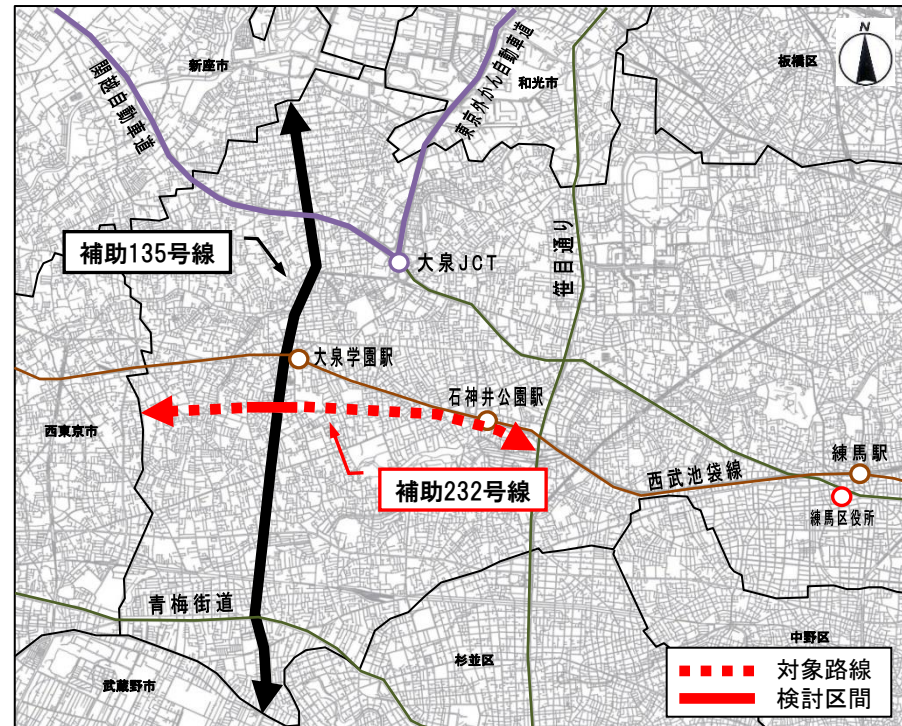
昭和41年：補助232号線の都市計画決定

平成 3年：補助135号線付近を前期事業化予定路線

(概ね平成15年度を目途に着手又は完成すべき路線)として選定

平成16年：東大泉六丁目付近(補助135号線付近)を優先整備路線(今後12年間(平成16~27年度)
で優先的に整備すべき路線)として選定

平成18年：石神井町三丁目付近(石神井公園駅前付近)において一部事業着手



5.周辺区市を含めた広域的な視点での課題

1) 補助135号線とのネットワーク

■武蔵野市

武蔵野市においては、補助135号線の接続先である武3・4・16号線が完成しています。

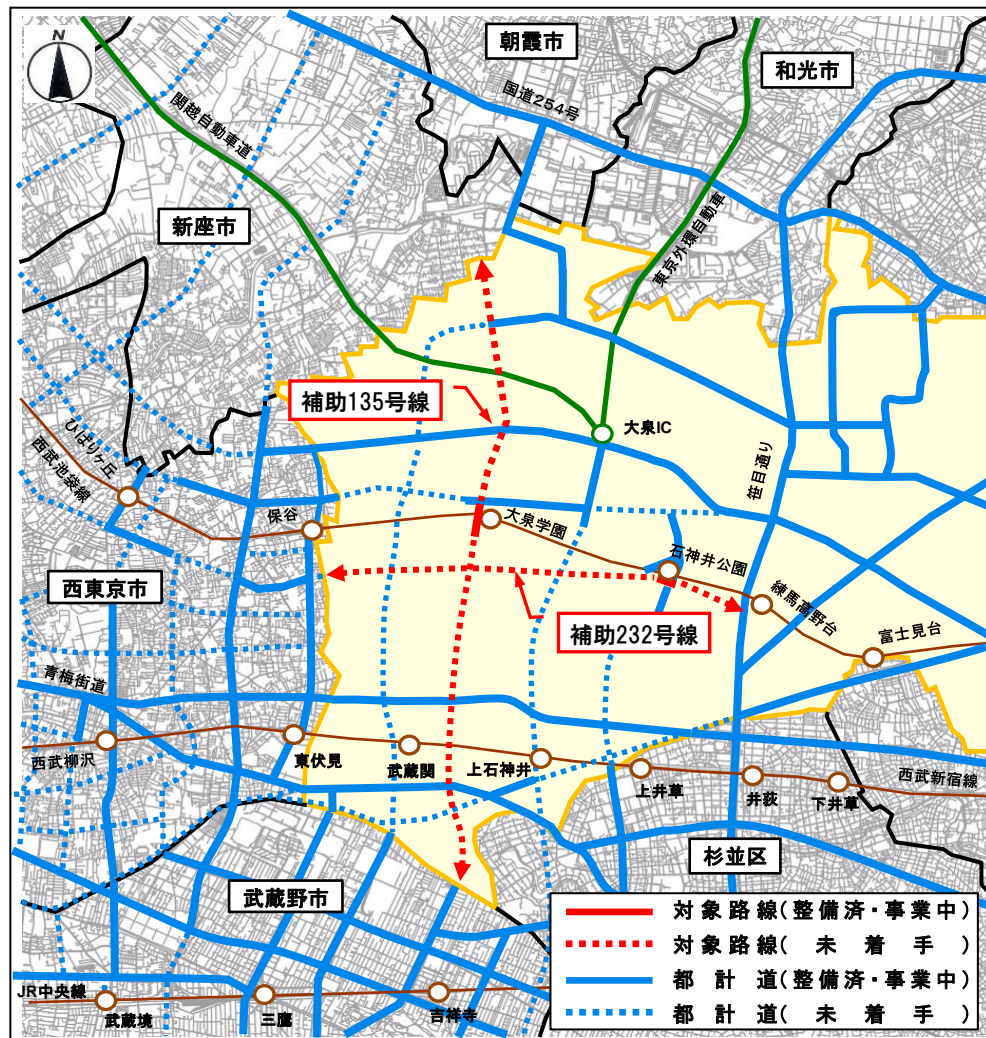
2) 補助232号線とのネットワーク

■西東京市

西東京市においては、補助232号線との接続先である西東京3・4・11号線の一部が完成しています。

3) 広域道路ネットワーク上の課題

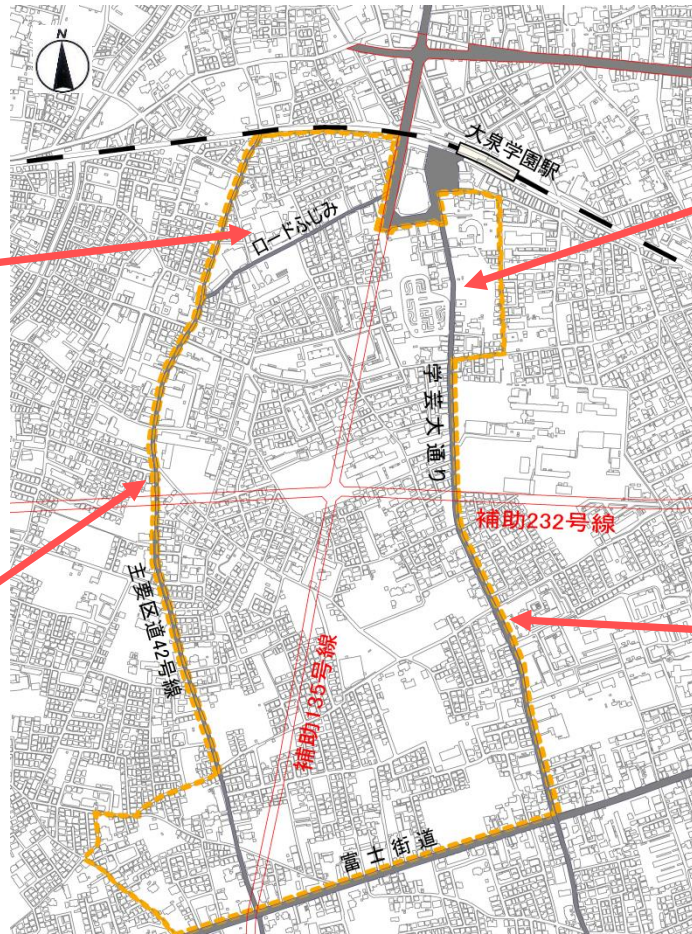
補助135号線および232号線の未整備区間があることによって、周辺区市との道路ネットワーク化が図られていない状況です。



6.地域的な視点での課題（周辺道路の状況）

補助135号線および232号線が未整備であるため、学芸大通りの交通渋滞やバスの定時性確保、ロードふじみへの通過交通の流入により歩行者の安全確保など交通環境の改善が課題となっています。

ロードふじみ



学芸大通り



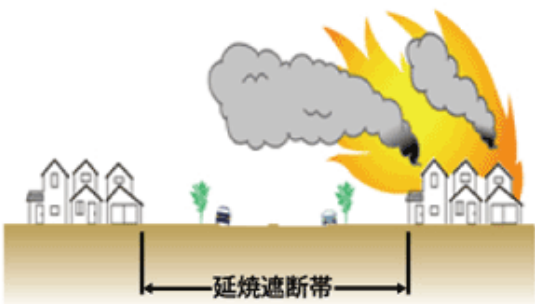
7.防災上の課題(延焼遮断帯)

東京都の延焼遮断帯

延焼遮断帯は、道路・河川・鉄道・公園等の都市施設と、それらの沿線の一定範囲に建つ耐火・準耐火建築物により形成される帯状の不燃空間をいいます。

東京都では都市計画道路を中心として、メッシュ状に配置することとしており、防災上の重要度から「骨格防災軸」「主要延焼遮断帯」「一般延焼遮断帯」の3区分に分けられています。

補助135号線 主要延焼遮断帯
補助232号線 一般延焼遮断帯



延焼遮断帯 (出典:東京都HPを編集)

8.防災上の課題(緊急輸送道路)

1) 東京都の緊急輸送道路

緊急輸送道路とは、阪神淡路大震災での教訓を踏まえ地震直後から発生する緊急輸送を円滑に行うため、高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路と知事が指定する防災拠点とを相互に連絡する道路をいいます。

2) 緊急輸送道路への影響

補助135号線および232号線の周辺道路である学芸大通りは、緊急輸送道路に設定されています。

学芸大通りは幅員8m程度の生活道路で、断続的に渋滞が発生しています。

安全な避難路や緊急車両の通行確保のためにも道路空間が必要です。

緊急輸送道路図



出典:東京都HPを編集

9.防災上の課題(消防活動困難区域)

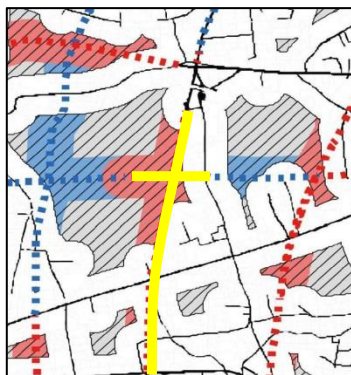
消防活動困難区域

練馬区西部地域の都市計画道路整備率は30.1%（平成27年3月31日現在）と低く本来、都市計画道路を通行すべき車両が住宅地の狭い道路へ流入しているため、円滑な消防活動に支障をきたしています。

消防活動困難区域とは、震災時に放置された自動車や倒壊した建物等の影響を考慮して通行可能とされる幅員6m以上の連続した道路から消防ホースの有効距離の長さである半径140m以遠の区域をいいます。

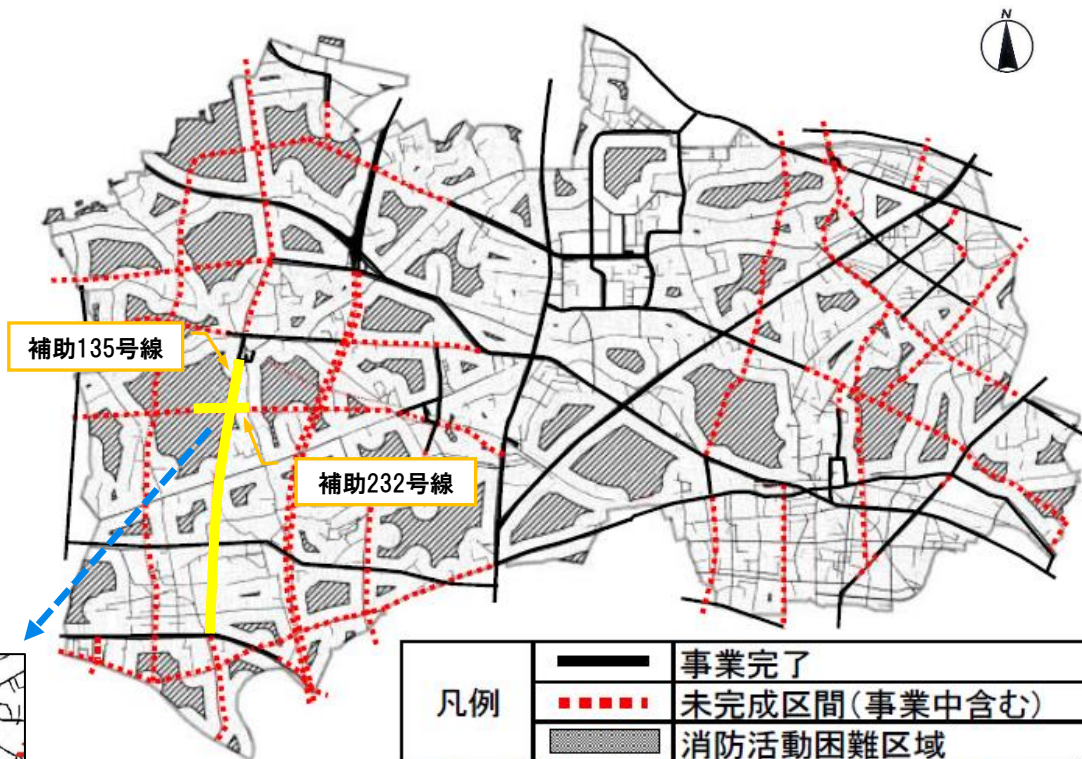
補助135号線および232号線の整備により、消防活動困難区域の改善が期待されます。

改善されたイメージ図



消防活動困難区域の変化
■ 四次優先完成時に解消される区域
■ 都市計画道路完成時に解消される区域
■ 生活幹線道路等の整備により解消する区域

区内における都市計画道路の整備状況および消防活動困難区域



※消防活動困難区域とは幅員6m以上の道路から140m以遠の区域を指す。

※都市計画道路の整備状況は、平成27年3月31日時点
※消防活動困難区域は平成23年度

出典：練馬区都市整備部資料を編集

10.都市計画道路の整備における大泉第二中学校に関する課題

区は、大泉学園駅南側地区の交通上・防災上の課題を解決するため補助135号線および232号線を整備することが必要であると考えています。

しかしながら、両路線の交差部分には大泉第二中学校が位置しており、事業を進める上でその教育環境をいかに保全していくかが主要な課題となっています。

